

## 平成30年度 富山県生涯学習カレッジ砺波地区センター運営会議 議事概要

日 時 平成31年2月5日(火) 14:00~15:30

場 所 富山県生涯学習カレッジ砺波地区センター 第1学習室

出席者 運営委員【10名】

仲井 文之(富山国際大学 教授)  
池田 真一(株式会社ロンウッド 代表取締役社長)  
大家 芳夫(介護老人保健施設 ゆうゆうハウス 事務長)  
大谷 朝子(元小矢部市立蟹谷小学校 校長)  
桐山 巧(雷鳥会砺波支部 支部長)  
瀧田 悟(津沢地区自治振興会 副会長)  
田悟 敏子(富山県「とやま食の匠」)  
飛田 久子(となみ野高等学校 学校評議員)  
中川美也子(小矢部市ボランティア連絡協議会 会長)  
塚崎志津江(公募委員 小矢部市子ども家庭支援センター 家庭児童相談員)

事務局【4名】

県民カレッジ本部 1名  
県民カレッジ砺波地区センター 2名  
となみ野高校 1名

- 1 開会(進行: 県民カレッジ砺波地区センター 野畑副所長)
- 2 開会の挨拶(県民カレッジ砺波地区センター 中明所長代理 野畑副所長)
- 3 委員の紹介(各委員・事務局の自己紹介)
- 4 議事(進行: 仲井文之運営会議会長)

### I 平成30年度事業概要報告(事務局)

・年間事業について

【講座運営】

- |             |              |        |       |
|-------------|--------------|--------|-------|
| ①地区センター主催講座 | 地域課題学び活かし講座  | 前期1講座  | 後期2講座 |
|             | ふるさと探究講座(専門) | 前期1講座  | 後期1講座 |
|             | ふるさと探究講座(基礎) | 前期2講座  | 後期2講座 |
| ②共学講座       | 前期3講座        | 通年19講座 | 後期7講座 |
| ③教養講座       | 全8回の講座       |        |       |
| ④自遊塾        | 4講座          |        |       |

【行事】

- ①となみキャンパスフェスティバル  
作品展示・活動報告展示・ステージ発表・朗読サロンコンサート・餅つきイベント実施
- ②わくわくシアター

5月～8月、11月～2月 月1回、県映像センター所蔵の映像を上映  
【刊行物】

- ①平成30年度 砺波地区センターだより「となみ野」第2号発行（7月）
- ②後期講座 受講者募集チラシ 小矢部市 班回覧（8月）
- ③となみキャンパスフェスティバルチラシ発行・配布（10月）
- ④平成31年度 砺波地区センターだより「となみ野」第1号発行（2月）
- ⑤平成31年度講座 受講者募集チラシ 南砺市全戸配布（2月）
- ⑥平成30年度「年報」発行（3月）
- ⑦「回顧3号」発行（3月）

・開講講座状況、受講者状況（講座アンケートも含む）の報告

年代別受講状況 地域課題学び活かし講座、ふるさと探究講座（専門）は70代以上の方が多い。  
ふるさと探究講座（基礎）、共学講座は60代の方が多い。  
地域別受講状況 南砺市からの受講者が人口の割に少ない。

（進 行）ここまでのところでご意見はあるか。

（委 員）共学講座において、抽選で落選した人を知っている。本当に受講したいと思っている人が受けられないことを可哀想に思うが、定員と受講者数の関係についてどのように対処しているのか。

（委 員）共学講座の講座内容によっては、指定されている定員が少なくないか（もっと多い定員でも可能ではないか）と感じるものがあるかどうか。

（事務局）共学講座は原則学校の授業であるので生徒が中心となる。定員数は学校側（担当者）と話し合いながら生徒の数とのバランスや授業内容、教室の広さなどを考えて決定している。今年度は定員通りに受講者数を決定した。

## II 県民カレッジ砺波地区センターの運営に係る現状と課題

### （1）学習機会の提供

（進 行）地域課題学び活かし講座、ふるさと探究講座（専門）において他の講座と比較して受講者数が少ない。これらの講座の受講者数を増やすにはどうすればよいか。また講座情報をより多くの方に知ってもらうにはどうすればよいか。ご意見を伺いたい。

（委 員）9月発行の受講者募集チラシが広報として効果的であったことが周囲の反応から感じた。そのチラシにあったQRコードでセンターだよりをすぐに見られたこともよかった。これが受講へ結びつけばよいが、「雰囲気かわからないから不安だ」と受講をためらう意見や「1回のみ体験的講座があればいいのに」などの意見があった。すぐには受講に結びつかなくても地区センターや講座内容を広く知ってもらうことはよかったと思う。

（進 行）4回の講座全てでなく1回だけの受講が可能であればよいのこの意見がありますが、この点について何か意見はないか。

（委 員）共学講座では、抽選で受講決定したにもかかわらず初めの1、2回受講して、後は休んでいる受講者もいる。落選した人もいるのでそれはやめて欲しい。いろいろな都合もあろうが、内容が思っていたことと違っていただけなども途中で来なくなる理由であることも考えられる。その対策のために、講座の様子や雰囲気を見学することは可能か。受講アンケートから受講のきっかけが「人づて」が2位であることから、実際の受講者から講座について話を聞くことも有効ではないか。

（事務局）各講座は複数回の講座で1シリーズとなっているため、1回のみ受講できる形は考えてい

ない。

(事務局) センター主催講座に関しては、定員を見ると(定員を下回っているため)受講者が少ないように見えるが、実数は増加している。チラシに関しては、ただたくさん配布すればよいではなく、費用対効果について考えねばならない。受講者の集め方を工夫すればよい。チラシをたくさん配布してどれだけの方が来られるのか。逆に非常に多くの方が殺到したら受け入れも困難になるであろう。

(進行) 南砺市へのチラシの配布は現在、案なのか。

(事務局) 既に準備が進行している。モノクロで安価になるようにしている。

(進行) さて、2番目の課題「わくわくシアター」の来場者を増やすことについてご意見をどうぞ。

(委員) 開催日は土曜日に限るのか。県映像センターのDVDなどは、地区センターでの貸し出しができるのか。

(進行) 昨年度は月2回、今年度は月1回で来場者が微増したとのこと。これについて説明を。

(事務局) 開催曜日については、今年度をふり返り検討したい。今年度は平日開催も考えたが、仕事などで来られない方も多いのではないかと考えて土曜日にした。地区センターでの県映像センターのDVDの貸出はできない。映像センターへ申し込めば郵送での貸出はできる。月の実施回数については、月2回実施によって来場者が増えるか他地区を参考にして検証したところ、そうでもなかったので月1回の実施とした。

(事務局) 本部で開催しているわくわくシアターには多くの来場者があり、昨年度から4地区でもわくわくシアターとして同じ内容を上映することにした。実施は土曜に定めていない。

(委員) 他の講座の受講ついでに見られるとよいのではないか。

(事務局) 他の地区センターでは多くの人が見に来ていて。方法や時間などを考えてみればよい。

(委員) 今年はポスターでPRとあるが、どこにポスターやチラシを置いたのか。

(事務局) 地区センターのサロン内、廊下に掲示した。外部への掲示、設置はしていない。

(委員) ポスターの出来がいいのだから、もっと他の人が見る場所にも貼ればよいと思う。親子でわくわくシアターにできないか。キャンパスフェスティバルの時に親子で楽しめるものをしてはどうか。

(事務局) 今後のわくわくシアターの参考にしたい。

## (2) 学習情報の提供

(進行) 「学遊ネット」をさらに広く多くの方に利用していただくにはどうすればよいか。ご意見を伺いたい。砺波地区センターHPへの1万7千件アクセスは、他の地区と比較してどうか。

(事務局) 人口比で見ても、他地区より低い数字である。

(委員) ホームページには講座の実施報告(様子画像・受講者感想)がされているが、それに加えて講座の資料や講師の著作などの情報も載せたらどうか。さらには講師への質問がホームページ上で講座前にできる形にしたらよいのではないか。

(委員) 講義の動画配信があればよいのではないか。そうすれば講座の雰囲気もわかり、新規受講者獲得につながるのではないか。繰り返しの学習にもなる。著作権の問題もあるかもしれないが。

(事務局) 講座の動画配信について、講師本人の了解が得られるか、講座時間は約60分から90分だがそれだけの時間を視聴できるか、定点カメラでよいのかなど考えるべき点もある。過去に約20講座を30分番組にしたものを現在、映像ライブラリーで視聴できるが、そろそろ止めることも考えている。定期的に新しいものを入れることができないため。

「学遊ネット」には本体HPがあり、その下に本部HP、各地区センターHP、映像センターHP、公民館学遊ネットHPがそれぞれある。本体HPでは、カレッジの会員登録すれば主催講

座の申込や自身のこれまでの受講記録が見られる。2200本の映像作品が見られる「とやまデジタル映像ライブラリー」のページもある。26万件で最もアクセス件数が多い公民館学遊ネットHPでは、県内のほぼ全市町村の公民館の学習情報を提供している。

ご提案のようにホームページでの講座の報告のほかにも、事前段階の講座情報や参考文献などを掲載するのによいかもかもしれない。

### (3) 学習相談

(進行) 学習相談の方法としてメールを有効活用するにはどのような方法が考えられるか。ご意見を伺いたい。

(委員) 受講者には友人同士、家族、夫婦で参加の方はどのくらいの割合でいるのか。一人で参加するより人を誘って参加するほうが受講しやすいと思うがどうか。

(委員) 私の家族も共学講座を受講しているが、今の授業は以前の詰め込み型ではなく考えさせる形をとっており、大変楽しく学び直しをしようかと言っている。これが次への期待となり、また仲間を誘うことで受講の輪が広がっていくのではないかと思う。それが一番強い宣伝になるのではないか。

(進行) メールを講座の情報や内容の素晴らしさを伝えるツールとして使用できるのではないか。

(事務局) メールをそのように活用するのであれば、それをアナウンスする必要がある。また、それについて対応しなければならない。今は60代でも多くの方がスマホを持っているようなので1つの方法として考える余地があるかもしれない。やるならば、どうアナウンスするか、受入態勢をどうするか考える必要がある。

(進行) 地区センターのHPへの案内やメール相談などをアナウンスする機会はあるのか。

(委員) いろいろな取り組みをしていることをもっとアピールして欲しい。メール相談やホームページへのアクセスをどんどんしてください、とPRしてはどうか。

(事務局) 学遊ネットは平成2年に全国に先駆けて開通した。当時から現在に至る中で、あれこれ手を加えて修正して今の学遊ネットがある。しかし大変使いにくいページであり、スマホでは見づらい設定になっている。

(委員) 先に出た受講者募集のチラシ回覧は、どこかで止まってしまったのか回ってこなくて私は見ていない。だからチラシ回覧していることなどもホームページでまとめて載せてみたらどうか。

(委員) 店などにセンターだよりを置いたらどうか。来店者は口コミで講座の情報を広げてくれる。口コミが一番だと思う。QRコードもうまく活用すればよいのではないか。

(事務局) 知ることと、行動することは別のものである。過去には2万枚のチラシで300人集まったものが、現在6千枚のチラシで600人集まっているのは口コミである。やはり人を動かす大きな力があるのは口コミである。この口コミをうまく活用できればもっと受講する人が増えると思う。

### (4) 学習交流 (キャンパスフェスティバル)

(進行) 11月に実施したキャンパスフェスティバルでは多くの来場者があった。平成29年度に比べて平成30年度はかなり来場者が増えている。来年度にはさらに「賑わいづくり」を工夫して学習交流を活発にしたい。これについてご意見を伺いたい。

(委員) 招待状がきたのでキャンパスフェスティバルを見に来た。多くの来賓の方に招待状を出していると思うが、来ている方は少ないようであった。展示物の中に知り合いの作品があり、興味を持って鑑賞できた。来賓の方もできるだけ多く参加してあげればよいなと感じた。

(委員) ボランティア団体として、この学習交流にどう関わればいいのか分からない。年1回の作文

コンクールにおいて、となみ野高校の生徒が必ず参加しているので、生徒のボランティア活動状況は聞いている。

(委員) 最近、キャンパスフェスティバルへの出品団体が減ってきている。何とか増やしたい。ボランティア団体の方も活動紹介などの展示をしてもらえたらいいと思う。合わせて皆さんもボランティアに参加してくださいというPRやメッセージも載せたらどうか。

ほかに少人数で読書会など体験型のコーナーをつくったら人が来やすいのではないかな。

(事務局) 今後の参考にします。

(委員) 「マナビィ」の小さいキーホルダーや携帯ストラップなどを作って、カレッジ受講生に配布すれば、それが会話のきっかけになり、互いの交流もしやすいのではないかな。予算の問題もあるでしょうが、そういう楽しさがあったらいいなと思う。

(事務局) 「マナビィ」は県民カレッジが発足した数年後に開催された全国生涯学習フェスティバルのマスコットである。これは石ノ森章太郎に著作権がある。

(進行) どうもありがとうございました。

## 5 閉会の挨拶 (県民カレッジ砺波地区センター 野畑副所長)

## 6 閉会